

震災関連記事のみの抜粋です

京仏壇・京仏具展 第三十回の節目を飾って

震災の直後だけに明日への希望強調

京仏壇・京仏具展実行委員長

吉田 治弘

本展は、京都府、市の共催を受けて伝統的工芸品京仏壇、京仏具の理解を広める目的ではじめられ、今年で通算三十回目となります。

現在、京都市左京区岡崎の京都市産業会館が改築中のため、三年前から京都府総合見本市会館に会場を移しています。第一回展いらい会場は三度変わりましたが、一度も途切れずに続けてこられたことは、ひとえに組合員一同の協力の賜であります。

昨年、京都は建都千二百年祝祭イベントで、伝統や文化の継承・保存も重要なテーマになりました。

伝統工芸の京仏壇、京仏具は、千二百の歴史に培われた京職人の智恵と技の結晶であります。今日に、永々と守り伝えられてきた伝統文化にその時代の新しい技を加味し、次の世代に受け継いでいくことが私達、仏壇、仏具に携わる者に与えられた使命であります。

ところで、今年は、一月十七日に発生した兵庫県南部地震で阪神の人々に大被害をもたらしました。被災された皆様に対して謹んでお見舞い申し上げます。まず、組合から京都新聞の事業部を通して義援金百万円を送りましたが、落ち着いてから被災地の人々へ、私達が今何をすればよいかじっくり考えて対策を練るつもりにしています。

地震の影響で、今、関西でのイベントや慶祝事は自粛ムードが広がっています。こんな時に世間一般から、とかく暗いイメージに捉えられがちな仏壇、仏具展の開催の是非が問われるかもしれません。

しかし私達は、このような時だからこそ、日本人の精神性に大きく影響を与え、仏教文化の、あこがれの姿を、一つの形として具現した仏壇、仏具の本来の姿を皆様に見ていただきたい、明日への希望の糧にしていきたいのです。

いつまでも沈んでばかりいてはいけないと判断して、例年どおり本展を開催することにしました。

【写真は省略】
